



校長室だより

武生第五中学校 校長室

令和8年 7月7日(火)

第5号



県中学校体育連盟夏季大会 7/2, 3

上記の大会が、卓球競技は越前市、バドミントン競技は勝山市で行われました。参加した中学生は全員が高い目標をもって挑んだ大会だと感じました。五中の3名も一生懸命さが伝わってきました。課題はそれぞれに残りますが、次の活動につなげてほしいと思います。3名の皆さん、ご家族の方、ご苦労様でした。



ワールドカップサッカー大会をTVで見て(雑感)

ある日本人選手が、ブラジル戦直後に感想を聞かれ、開口一番に「力不足」と言いました。グループリーグで負けなかった日本には、今回いつも以上に強さとまとまりを感じました。ただ、その覚悟や思いは、チームに参加していた人にしかわからないものです。世の中、評論する人は多いけれど、本田解説者の試合直後の解説が途切れたのは、何度もトライしてきた日本代表を実体験しているからこそだと思いました。

また、参加できただけで素晴らしいと思うのに、国によっては、敗退した自国チームへの誹謗中傷が絶えなかったりなど、残念な報道も流れました。SNS上では情報の信ぴょう性に欠けるものも氾濫し、真剣にプレイしている選手がいるのに、何て残念なのだろうと感じました。世の中、何が本当の情報なのかのかわかりにくい時代ですが、正しい情報を選び取ることは、自己責任であると思うので、五中の生徒にもその点を学んでほしいと思いました。素晴らしいプレイが続いている大会ですが、本気で勝ちにいくとは、どういうことで、どんなことをすればいいのか考えさせられました。

話 題～「ガチ」か「ライト」か～

先日、認定地域クラブの指導者研修の中で使われていた言葉です。「ガチ」・・・つまり本気、真剣、本当にという若者言葉の俗語です。それに対して「ライト」とは、ここでは、軽い、ゆるい、本気ではない、楽しむ程度などという意味だそうです。スポーツにおいて、どこからどこまでがガチで、ライトなのか、学校を母体としたこれまでの部活動には、常にこの二つは混在しながら、教育的価値が高いとされ、運営されてきました。ところが、クラブとなるとガチなのか、ライトなのか、コンセプトを明確にしないと、うまくいきません。部活動では、ガチなところは強豪校となったりしてきましたが、ライトの方は運営が難しく、最近の日本人らしい柔軟な発想で、ハイブリット的な考え方で運営されるクラブも出現しています。ビギナーからサテライトまで段階的に運営されますが、途中挫折も多いことも否めません。それぞれに課題はありますが、これからの子どもを取り巻く世界で、日本は何を残してやれるのかと考えてしまいました。